

資源添加率向上技術開発研究(クルマエビ)

(予算区分 県単独 研究期間 平成20～22年度)

担当：浜名湖分場

【研究の背景とねらい】

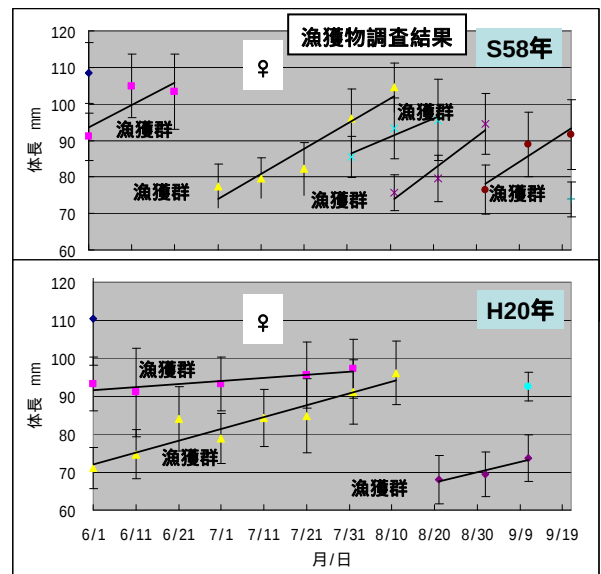
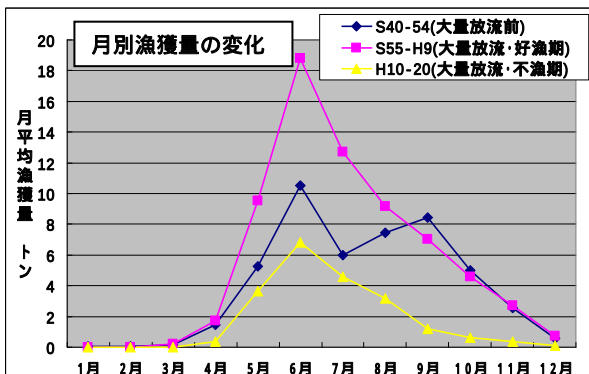
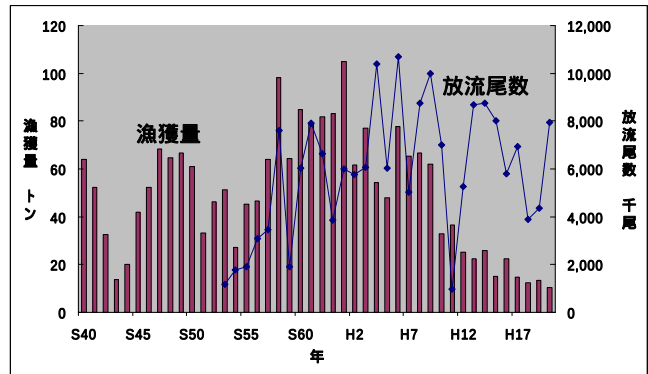
浜名湖の重要資源であるクルマエビを増やすために、種苗放流が積極的に行われています。その結果、大量放流以前(昭和40～54年)の平均漁獲量47トンが、大量放流後(昭和55～平成9年)には67トンにまで増加しました。しかし、平成10年以降は激減し、21トンにとどまっています。

この減少の原因究明と資源増大方法を検討し、漁獲量の増大を目指します。

【これまでに得られた成果】

(平成20年度の成果)

- ・近年(平成10～20年)の月別漁獲量は、好漁期(昭和55～平成9年)と同様6月にピークがありました。このことから、放流効果はなくなっていないと考えられました。
- ・経時的に漁獲物を調べたところ、好漁期である昭和58年と比較して、成長が遅く、小型化している傾向がありました。また、漁獲群が少なく、天然資源の状態が悪化している可能性も認められました。



【期待される成果】

- ・漁獲量減少の原因が把握できます。また、種苗放流の効果も算出できます。さらに、天然資源の状態や浜名湖の環境の変化に応じた資源量増大手法の開発が期待されます。

【今後の計画】

- ・経時的な漁獲物調査(平成20～22年度)
放流エビと天然エビの判別が可能となり、種苗放流の効果が算出されます。
- ・天然エビの加入量調査(平成21～22年度)
浜名湖にどの程度天然エビが加入しているかを調べ、天然資源の状態を把握します。
- ・環境調査(平成21～22年度)
浜名湖の生産力の指標となる植物色素クロロフィル濃度を調べます。

(作成 平成21年4月)